

四半期報告書

第138期第1四半期

(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)

大阪市城東区鳴野東1丁目2番1号

タカラスターダード株式会社

E 0 2 3 7 3

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 1

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 4
- (2) 新株予約権等の状況 4
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 4
- (4) ライツプランの内容 4
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 4
- (6) 大株主の状況 4
- (7) 議決権の状況 5

2 役員の状況 5

第4 経理の状況 6

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 7
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 9
 - 四半期連結損益計算書 9
 - 四半期連結包括利益計算書 10
- (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 11

2 その他 13

第二部 提出会社の保証会社等の情報 14

[四半期レビュー報告書] 巻末

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年8月10日
【四半期会計期間】	第138期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	タカラスタンダード株式会社
【英訳名】	TAKARA STANDARD CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 渡辺 岳夫
【本店の所在の場所】	大阪市城東区鳴野東1丁目2番1号
【電話番号】	06 (6962) 1531 大代表
【事務連絡者氏名】	常務取締役（経理管掌） 田中 茂樹
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿6丁目12番13号
【電話番号】	03 (5908) 1231
【事務連絡者氏名】	常務執行役員東京支社長 久森 勝彦
【縦覧に供する場所】	当社東京支社 （東京都新宿区西新宿6丁目12番13号） 当社名古屋支店 （名古屋市東区矢田3丁目2番24号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第137期 第1四半期 連結累計期間	第138期 第1四半期 連結累計期間	第137期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高（百万円）	30,833	37,631	125,570
経常利益（百万円）	1,692	3,991	5,051
四半期（当期）純利益（百万円）	947	2,279	2,561
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	595	2,132	2,347
純資産額（百万円）	114,094	116,077	115,848
総資産額（百万円）	171,158	180,836	173,508
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	6.47	15.58	17.51
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（%）	66.7	64.2	66.8
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	2,445	△29	9,245
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△210	△2,543	△7,269
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△1,664	△1,683	△2,910
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	30,839	25,079	29,335

（注）1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第137期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響による経済活動の停滞や不安定な電力供給が懸念されるなか、先行き不透明な状況で推移いたしました。

住宅市場におきましては、新築需要では震災後の建築資材不足などの影響により、建設現場で工期の遅れが発生するなど不安定な状況にありました。また、リフォーム需要におきましても、震災の影響による消費マインドの低下など力強さに欠ける状況にて推移いたしました。

このような状況の下、当社グループにおきましては震災による人的な被害や生産設備の被害は殆どなく、商品を比較的安定供給できたことから、前年同四半期比で売上増となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高376億3千1百万円（前年同四半期比22.1%増）、営業利益37億7千4百万円（前年同四半期比155.3%増）、経常利益39億9千1百万円（前年同四半期比135.9%増）、四半期純利益22億7千9百万円（前年同四半期比140.6%増）となりました。

製品部門別の状況は、次のとおりであります。なお、当社グループは「住宅設備関連事業」のみの単一セグメントであるため、セグメント情報ごとの記載は省略しております。

a 厨房部門

厨房部門では、モデルチェンジを実施いたしましたホーローシステムキッチン「レミュー」・「エーデル」、更に木製のシステムキッチンについても販売台数を伸ばしたことから、売上高は203億2千7百万円（前年同四半期比20.1%増）となっております。

b 洗面部門

洗面部門では、「エリーナ」をはじめとしたホーロー洗面化粧台と、木製洗面化粧台が販売台数を伸ばしたことから、売上高は29億9千7百万円（前年同四半期比13.2%増）となっております。

c 浴槽部門

浴槽部門では、全てのシリーズが順調に推移したことから、売上高は108億2千4百万円（前年同四半期比30.8%増）となっております。

d 給湯部門

給湯部門では、「ガス給湯器」・「石油給湯機」・「電気温水器」・「エコキュート」の全てが順調に販売台数を伸ばしたことから、売上高は10億5千5百万円（前年同四半期比27.7%増）となっております。

e 衛生部門

衛生部門では、住宅向けトイレの「ティモニ」が、ホーロートイレパネルとのセット販売により順調に販売台数を伸ばしたことから、売上高は3億8千7百万円（前年同四半期比61.0%増）となり、平成20年3月発売開始以来好調に推移しております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ42億5千6百万円減少し、250億7千9百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の減少は、2千9百万円（前年同四半期は24億4千5百万円の増加）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益39億6千万円、仕入債務の増加46億6千1百万円などの増加要因に対し、売上債権の増加68億6千7百万円、たな卸資産の増加25億3千8百万円などの減少要因によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金は、25億4千3百万円の支出（前年同四半期は2億1千万円の支出）となりました。これは主に、定期預金の預入による支出20億円と、有形固定資産及びソフトウェアなどの無形固定資産の取得によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の支出は、配当金の支払などにより、16億8千3百万円（前年同四半期は16億6千4百万円の支出）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間において支出した研究開発費の総額は、2億5千5百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数（株） （平成23年6月30日）	提出日現在発行数（株） （平成23年8月10日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	147,874,388	同左	大阪証券取引所 （市場第一部） 東京証券取引所 （市場第一部）	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株 式であり、単元株式数は 1,000株であります。
計	147,874,388	同左	———	———

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 （千株）	発行済株式 総数残高 （千株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金 増減額 （百万円）	資本準備金 残高 （百万円）
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日	—	147,874	—	26,356	—	30,719

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	———
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	———
議決権制限株式（その他）	—	—	———
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 1,541,000	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 146,023,000	146,023	同上
単元未満株式	普通株式 310,388	—	1単元（1,000株）未満の株式
発行済株式総数	147,874,388	—	———
総株主の議決権	—	146,023	———

（注）「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式163株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
（自己保有株式） タカラスタンダード株式会社	大阪市城東区鳴野東 1丁目2番1号	1,541,000	—	1,541,000	1.04
計	———	1,541,000	—	1,541,000	1.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、近畿第一監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	34,335	32,079
受取手形及び売掛金	35,310	42,210
商品及び製品	9,218	11,065
仕掛品	1,176	1,453
原材料及び貯蔵品	2,305	2,718
その他	1,750	2,462
貸倒引当金	△169	△200
流動資産合計	83,927	91,789
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	29,140	28,947
土地	39,102	39,207
その他（純額）	6,963	6,590
有形固定資産合計	75,206	74,745
無形固定資産	1,626	1,533
投資その他の資産		
投資有価証券	8,083	7,870
その他	4,665	4,898
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	12,747	12,768
固定資産合計	89,581	89,046
資産合計	173,508	180,836

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,941	27,799
短期借入金	9,900	9,900
未払法人税等	2,148	1,809
その他	7,881	10,258
流動負債合計	42,871	49,767
固定負債		
退職給付引当金	12,923	13,141
役員退職慰労引当金	615	625
その他	1,249	1,223
固定負債合計	14,788	14,990
負債合計	57,659	64,758
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,356	26,356
資本剰余金	30,736	30,736
利益剰余金	56,866	57,244
自己株式	△891	△892
株主資本合計	113,068	113,444
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,420	1,273
土地再評価差額金	1,359	1,359
その他の包括利益累計額合計	2,779	2,633
純資産合計	115,848	116,077
負債純資産合計	173,508	180,836

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
売上高	30,833	37,631
売上原価	19,342	23,098
売上総利益	11,490	14,533
販売費及び一般管理費	10,012	10,759
営業利益	1,478	3,774
営業外収益		
受取利息	30	8
受取配当金	98	101
その他	193	176
営業外収益合計	322	286
営業外費用		
支払利息	22	0
その他	86	68
営業外費用合計	109	68
経常利益	1,692	3,991
特別利益	—	—
特別損失		
固定資産除却損	26	31
特別損失合計	26	31
税金等調整前四半期純利益	1,665	3,960
法人税等	717	1,681
少数株主損益調整前四半期純利益	947	2,279
四半期純利益	947	2,279

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	947	2,279
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△352	△147
その他の包括利益合計	△352	△147
四半期包括利益	595	2,132
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	595	2,132
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,665	3,960
減価償却費	1,097	1,064
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	14	31
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	156	218
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	7	10
受取利息及び受取配当金	△128	△109
支払利息	22	0
有形固定資産除却損	26	31
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,127	△6,867
たな卸資産の増減額 (△は増加)	191	△2,538
仕入債務の増減額 (△は減少)	860	4,661
その他	1,268	1,515
小計	3,054	1,977
利息及び配当金の受取額	140	107
利息の支払額	△22	△20
法人税等の支払額	△728	△2,094
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,445	△29
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	—	△2,000
投資有価証券の取得による支出	△26	△31
有形固定資産の取得による支出	△256	△466
無形固定資産の取得による支出	△51	△106
貸付金の回収による収入	117	72
その他	6	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△210	△2,543
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△2	△1
配当金の支払額	△1,662	△1,682
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,664	△1,683
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	569	△4,256
現金及び現金同等物の期首残高	30,266	29,335
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	4	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 30,839	* 25,079

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日現在) (百万円)	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在) (百万円)
現金及び預金勘定 30,839	現金及び預金勘定 32,079
預入期間が3ヵ月を超える定期預金 —	預入期間が3ヵ月を超える定期預金 △7,000
現金及び現金同等物 30,839	現金及び現金同等物 25,079

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,902	13.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,902	13.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

当社グループは、「住宅設備関連事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	6円47銭	15円58銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	947	2,279
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	947	2,279
普通株式の期中平均株式数(千株)	146,342	146,332

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年8月9日

タカラスタンダード株式会社

取締役会 御中

近畿第一監査法人

代表社員 公認会計士 伊藤 宏 範 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 岡野 芳 郎 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているタカラスタンダード株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、タカラスタンダード株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。